

介護

の現場から

その37

介護を必要とする方の希望を尊重し、総合的なサービスが安心して受けられ、それを社会全体で支える仕組みが介護保険制度です。

この制度は、平成12年4月にスタートして以来、数回の見直しがありました。一幸会では社会情勢や高齢者を取り巻く意識や行動の変化等に応じ、この地域の介護に対して求められているものは何かを、常に考え続けてき



ました。そして、2カ所目の居宅介護支援事業所として「健康園居宅介護支援センターみはら」が平成20年1月に開所しました。

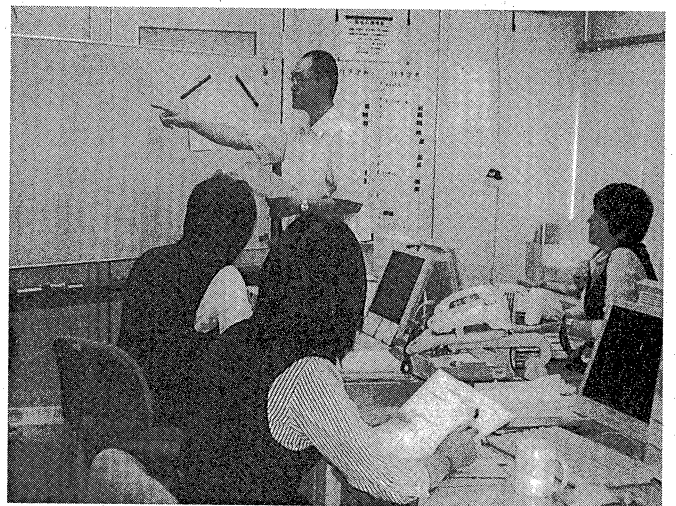
居宅介護支援事業所にはケアマネジャー(介護支援専門員)がおります。ケアマネジャーとは、国家資格を有する介護保険の専門家です。介護を必要とする一人ひとりの状態に合わせて生活の計画

「普通の暮らし」をサポート

健康園居宅介護支援センター長 佐藤 規子

を一緒に考えながら、介護のサービスやその他のさまざまなサービスも組み合わせ、できるだけ自立した生活が送れるように支援します。直接的に介護をするわけではありませんが、利用者の窓口となつて必要なサービスに「つなぐ」役割を果たします。

その人がその人らしく



Aさんは、高齢の母親を介護していました。「母さんはこの部屋から庭を眺めるのが好き。今まで何回も入院を繰り返して、『入院はしたくない』っていつも言っていた。だからこれからは、皆さん力を貸していただきたいのでこの家で看取りたいのです」と話されました。介護者であるAさん自身、65歳を過ぎていたもので、心配されることはい

くつかありました。でも、その熱意に、私も含めた介護チームのスタッフが心を動かされ、支援させていただきます。Bさんは、「みんなのおかげだ」と言っていて、今も一人暮らしを続けています。このため一人暮らしは大変だけれども、地域の温かさや協力には私も感動を受けたものです。思いを受け、かかりつけの先生はもちろん、近所の方、町内の方、多生活を送ることができ、高年齢の皆さんが住み慣れた地域で快適な生活を送ることができるようサポートいたします。

利用者とその家族との対話のために内部のミーティングで事例研究も行っています。

「その人がその人らしく望む普通の暮らし」をモットーに自立のための支援を大切にいたします。

これは、一幸会の居宅介護理念です。

この理念に基づき、ケアマネジャーは利用者が大切な人生を有意義に暮らすことができるように、責任を持ってかわるよううにしております。人の生き方、生活はいろいろあります。介護が必要になっても、その人が「自分らしく」暮らすことができるように、あるいは「その人らしさ」を引き出すことができるように、私どもケアマネジャーは常に利用者やご家族の皆さまに寄り添い、対話し続けていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

このコーナーは第2、第4水曜日付に掲載予定。